

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493600041	事業の開始年月日	平成18年10月1日	
		指定年月日	平成18年10月1日	
法人名	(株)ウイズネット			
事業所名	グループホームみんなの家横浜飯田北 I			
所在地	(千000-0045)			
	神奈川県横浜市泉区上飯田町3795-9			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2 ユニット	
自己評価作成日	平成22年1月24日	評価結果 市町村受理日	平成22年5月25日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在は車椅子使用者が7人おり他の事業所と比較しても重度な方が目立つ。重度者でもその人らしく生活できるよう支援しており、その為の職員研修も行っている。季節行事や地域の訪問の助けも借り、地域に孤立する事無く地域に根ざした施設運営が行えている。また障害者自立支援施設や障害学級の方々とも交流を図っている。地域には同形態のGHも点在しており、交流を図り、刺激や楽しみの提供に繋げている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成22年2月23日	評価機関 評価決定日	平成22年3月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<事業所の優れている点>
 ◇利用者本位の体制の見直し
 開設して3年過ぎ、利用者の目標設定期間と職員の意識付けを再検討している。全職員出席の職員会議を月5,6回に増やし、介護計画も3ヶ月ごとにカンファレンスで全職員の意見を聞き、見直すことに改革した。看取り介護マニュアルも新たに整備した。
 ◇一人ひとりを尊重する支援
 利用者の重度化により、職員は会話での要望に加え家族との連携や利用者への注意深い観察により個別の要望に応じている。散歩は集団外出のほか、一人ひとりの外出希望に応じて職員が付添い、鳥を眺めに出かけたり、近隣の商店で買い物を楽しんでいる。
 ◇地域との交流
 小学生が器楽合奏に訪問したり、中学生体験学習の受入れ、自治会の盆踊り参加、地域ボランティアの積極的受け入れなど、地域との交流も盛んである。
 <事業所の工夫点>
 ◇情報を集約した申し送りノートの工夫
 申し送りノートは利用者個人別のルーズリーフ式で、日常の情報ほか通院報告書などもコピーして情報を集約している。重要箇所は大きく朱書きや色分けで見易く、全職員の閲覧印があり、情報を全職員で共有できている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームみんなの家・横浜飯田北Ⅱ
ユニット名	ユニットⅠ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

みんなの家横浜飯田北 I

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の理念「やさしさとおもいやりで良質なケアサービスの提供」の基に、家庭的な環境の中での介護支援と地域との交流の活性化に取り組んでいる。	・理念「やさしさと思いやりで良質なケアサービス提供」を更にわかりやすい理念への作り直しを進めている。職員とホーム長が話し合っ方針の再確認をしている。	入居者の状況を把握し、目的を明確にして行動する意識付けについて職員会議で話し合い、実践が進んでいます。その方向で進めている理念作りが着実に実現することを期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域活動には積極的に参加し、ボランティアの受け入れも行っている。その他の活動として小学校とも交流を図っている。	・自治会に加入し、盆踊りなどの行事に積極的に参加している。ボランティアの来訪、隣接小学校児童の合奏訪問、障害者自立支援施設からのパンの訪問販売などがあり、地域とは活発に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「認知症の理解」について小学校で特別授業を行った。色々な形で支援を検討している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3か月に1回のペースで開催している。・出席者の関係で同地区2グループ合同での会議になっている。ホームの運営状況や意見を頂きサービス向上を目指している。	・家族、地域代表各2名、泉区サービス課、地域包括支援センター職員が参加し3ヶ月ごとに行っている。事業所からは状況報告・行事予定を報告し、評価、助言を頂いている。	
5		市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の出席を含めていつでも相談できる体制ができています。地元の中学生の体験学習は当初、泉区の紹介で始まっている。	・日常の相談は、泉区サービス課のほか地域事情に詳しい地域包括支援センターと行い、徘徊ネットワークの登録などの助言を受けている。泉区の紹介で上飯田中学校の体験学習を受け入れている。	

みんなの家横浜飯田北 I

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社の方針として玄関の施錠は行っているが、入居者様の意向がある時は開錠するよう指導している。また会社内部にある安全対策委員会を筆頭に身体拘束チェックを3ヶ月に1回行っている。	・身体拘束マニュアルがあり3ヶ月ごとに居室担当者が身体拘束チェック表（11項目）でチェックしている。玄関は安全のため施錠しているが、利用者の外出意向に添って職員が開錠している。	日中も玄関を施錠しない管理体制に向かって検討を進めることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社内部に安全対策委員会があり、定期的な研修や資料配布を頂いている。また、原因不明のあざ等について原因を探り介護方法についても見直しを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会社内部にて研修を用意している。また毎月の会議にて権利擁護の視点を含めたケアのあり方やキーパーソンとの係り方について講義している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時はもちろんだが、通院や利用者様の介護度当の変更時等折をみて説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回家族会を行い要望を伺っている。その内容は職員会議や会社上部に伝え、運営に反映させている。	・利用者からは日常の会話から、家族からは来訪時や家族会で、意見・要望を聞いている。聞きとった内容は申送り簿や苦情相談受付票で把握し、職員会議で共有している。家族の要望により玄関に職員紹介の掲示をした。	

みんなの家横浜飯田北 I

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やホーム長とのヒヤリングにて出てきた要望は職員会議で検討したり、会社上部に伝えている。	・月5,6回の職員会議は全員が参加し、随時意見・提案を出している。ホーム長は年2回個人面談を行い、職員から事業所に必要な改善課題や、希望する資格取得などの意見・提案を聞き取っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回職員考課を行っている。又、考課内容は職員にバックし就業目的や資格の習得にむけサポート出来るようにヒヤリングを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修・社外研修の案内を掲示している。出来るだけ積極的に参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同一町内の他の2グループホームとは運営推進会議にて関係を持っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	暫定介護計画の策定も含め意向の確認をしている。		

みんなの家横浜飯田北 I

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	暫定介護計画の策定も含め意向の確認をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	暫定介護計画の策定も含め意向の確認をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は出来るだけ行って頂いている。また得意な事は教えて頂いたり等関係を作っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会にて家族の係りについて相談している。またイベント等に参加して頂けるように機会を設けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの交流は出来るだけ尊重し継続できるように支援している。入居者様との買い物は地域の場所に行くよう心がけている。	<ul style="list-style-type: none"> ・家族が以前からの知人や隣人同伴で訪れたり、家族と墓参や美容院に出かけている。 ・日常的に買物先での旧知の方との出会いを大切に、関係性を汲み取って支援している。 	

みんなの家横浜飯田北 I

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆さんで外出したり、皆さんで歌ったりする機会を設け利用者様同士が係れる時間を提供している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡退去以外は定期でお手紙を送り退去後の生活の確認を行っている。		
III 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	思いや意向は家族から、CDを聴く、将棋を指す、詩を書くなどの過去の生活情報を得ておき、会話や表情、反応を通して何をしたいかを確認して支援している。	・利用者の重度化により暮らし方の希望や意向は主に家族から聞きとり、利用者とは会話や表情で確認している。新聞折り込みチラシを活用して食材や料理を具体的に示し、食べたい物などを聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴を御家族様やご本人様に確認し、その情報を職員で共有している。また環境の整備を出来る限りしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のKFにて状態の把握・情報の共有を図りながら「本人様にとって過ごし易い様に」検討し維持向上を図っている。		

みんなの家横浜飯田北 I

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者を中心に居室担当と共に情報を集め作成している。	・介護計画は、計画作成担当者と居室担当者が情報収集して作成し、3ヶ月ごとに全職員参加のカンファレンスで見直している。家族の意見は聞き取りのほか相談受付票にも記入してもらい、介護計画作成後は家族来訪時に説明し、意見を見直しに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録を残している。現在計画内容の記載を検討中。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	会社内外のサービス情報を集め準備している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会から得られる資源を活用して備えている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所契約時に、今までのかかりつけ医はホームで用意している医療機関か二択頂いている。また必要時は外部通院も援助し本人様のニーズに対応している。	・月2回の協力医および歯科医の往診、週1回の訪問看護があり、診察結果は月1回コピーか電話で家族に知らせている。入居前のかかりつけ医医療機関への通院は家族にお願いしているが、必要に応じて職員が付添っている。	

みんなの家横浜飯田北 I

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	勤務時に申し送り等を確認して頂き日々の様子の把握や介護者側からの要望・要請を確認して頂いている。また当日に口頭にて相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は定期的に面会し状況の把握を家族様からの報告だけでなくしている。また日頃より協力体制をお願いしている病院のサマリー等は共有し情報の伝達がスムーズに行く様努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の検討ケースはないが、終末期への指針は入居時に説明している。	・重要事項説明書に重度化対応指針を明記し、入居時に家族に説明している。「看取り介護マニュアル」を新しく作り、方針と具体策を職員が共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成。また消防訓練時応急手当や心肺蘇生法について指導頂いている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年2回行い訓練している。地域にもホームの存在は周知されており災害時の協力のお願いはしている。	・年2回消火避難訓練を行い、訓練写真を貼り出し家族にも様子を伝えている。次回開催の夜間想定訓練には、地域の自衛消防団も参加予定である。防災チェック表で毎日喫煙場所、厨房などを点検している。	

みんなの家横浜飯田北 I

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いについては、採用時に職員から個人情報順守の契約書を取っている。 ・利用者のプライバシー保護については、入所時に家族に説明し、職員指導を日常行っている。	・個人情報保護規定があり、入社時に研修を行い、職員から誓約書を取っている。研修ではプライバシーに配慮した信頼関係をとれる言葉遣いなどを学び、毎月の職員会議で再確認をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝のお召し物から始まり自己選択出来る環境を作り尊重している。また選択する事が困難な方にも出来る限りの支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り意向を尊重しその人らしく1日が支援できるように耳を傾けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や起床時等、服を選択頂く時や祝い事の時など希望者には化粧等のお手伝いもしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嚥下状態に合わせて、キザミ食やトロミ食を提供し、スプーンなどを使いやすい器具を提供して自分で食べるように支援している。 ・食事中は、職員は楽しい会話も心がけている	・利用者に応じてとろみ食、ミキサー食、超刻み食などを提供し、使いやすいスプーンを工夫して食べてもらったり、支援が必要な方へは全介助もしている。月1回イベント食の日を設け、好みのメニューを選んだり、または、車椅子の人と一緒に回転寿司で外食している。	

みんなの家横浜飯田北 I

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事メニューは管理栄養士が管理している。水分摂取量は毎日の計測で管理を行っている。また、咀嚼・嚥下能力や残存機能に応じた自助具の使用も含め検討・支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアや週1回の歯科衛生士指導にて口腔の清潔保持を保っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄は出来るだけトイレ誘導のち自尿を促している。また習慣や介護抵抗度、睡眠状況・皮膚疾患等の多種の情報を元に意向を尊重しながら排泄介助支援を行っている。	・排泄に関する情報（パターン・皮膚疾患等）を把握してトイレでの自立排泄を支援している。失禁が多い方には様子を察知してトイレに座ってもらうことから始め、失禁回数が減るなど効果が上がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動療法として散歩を多様している。また乳製品等のおやつ提供も取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	希望者には毎日の入浴も支援している。満足いく時間の入浴を大切にしている。また、入浴時間は朝10時から16時までの枠内にて自由に入浴頂いている。	・浴室、脱衣場は大型赤外線ヒーターで暖かく、入浴リフトも設置している。午後を中心に入浴しているが、時間の希望により10時から16時迄は自由に入浴することができる。浴室事故の新聞コピーを掲示し注意を促している。	

みんなの家横浜飯田北 I

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日中起きている方は少なく、居室で休みたい方や椅子に座ってウトウトされる方と色々ですが、軽眠時は見守りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬担当・居室担当は担当している方々の服薬情報を把握している。必要時は看護師・医師・薬剤師と相談し服用して頂いている薬について意見交換を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自治会に加入し盆踊りやあやめ祭り、モミジ狩りなどに参加して楽しんでいる。・室内では利用者の生活歴や過去の趣味などを考慮して、レク等に反映させている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日散歩に出掛け、車椅子利用者も一緒に出かけている。散歩の折に近くのお店で嗜好品を購入して楽しんだり、春には、お花見にも行っている。	・散歩には車いすの利用者を含め天気の良い日は毎日出掛け、畑を眺めたり近隣の商店で買い物を楽しんでいる。お花見など集団での外出のほか、一人ひとりの外出希望に応じて職員が付添っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行った際は、出来るだけレジに自身で行って頂く様に促している。		

みんなの家横浜飯田北 I

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望が有り、先方の了解が取れる時は電話をつなぐ事もしている。年賀状が主だが代筆等支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の採光は豊で、湿度・空調音などは、利用者が居心地よく過ごせるように管理している。ホーム内の飾りは危険回避の為に入居者様の手の届かない所に掲示するなど配慮している。	・食堂は南向きで冬の日差しが入り明るく暖かい。テーブルを囲んで今日の新聞記事を和やかに話してる様子が見られた。壁には行事写真、交流のある人々からのメッセージ、お雛様の貼り絵を掲示してある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	普段からの設置はないが希望があればテラスに椅子を出したり居室内で他入居者様と談笑できる環境を整備している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に「居心地良く過ごす」為の相談を支援している。また、途中からでも検討・支援を行っている。	・ベッド、クローゼット、小箆箆は備え付けになっており、家族写真、手紙、ラジオ、テレビなどを持ち込んでいる。シーツをはじめ洗濯、掃除が行届き清潔である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様に必要な物や掲示は出来るだけ見やすく表示。設置し自立出来るよう支援している。		

事業所名	グループホームみんなの家・横浜飯田北Ⅱ
ユニット名	ユニットⅡ

Ⅴ アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらい 3, 利用者の1/3くらい 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

みんなの家横浜飯田北 I

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の理念「やさしさとおもいやりで良質なケアサービスの提供」の基に、家庭的な環境の中での介護支援と地域との交流の活性化に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域活動には積極的に参加し、ボランティアの受け入れも行っている。その他の活動として小学校の生徒さんとも交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「認知症の理解」について小学校で特別授業を行った。色々な形での支援を検討している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3か月に1回のペースで開催している。・出席者の関係で同地区2グループ合同での会議になっている。ホームの運営状況や意見を頂きサービス向上を目指している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の出席を含めていつでも相談できる体制ができています。地元の中学生の体験学習は当初、泉区の紹介で始まっている。		

みんなの家横浜飯田北 I

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社の方針として玄関の施錠は行っているが、入居者様の意向がある時は開錠するよう指導している。また会社内部にある安全対策委員会を筆頭に身体拘束チェックを3ヶ月に1回行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社内部に安全対策委員会があり、定期的な研修や資料配布を頂いている。また、原因不明のあざ等について原因を探り介護方法についても見直しを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会社内部にて研修を用意している。また毎月の会議にて権利擁護の視点を含めたケアのあり方やキーパーソンとの係り方について講義している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時はもちろんだが、通院や利用者様の介護度当の変更時等折をみて説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回家族会を行い要望を伺っている。その内容は職員会議や会社上部に伝え、運営に反映させている。		

みんなの家横浜飯田北 I

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やホーム長とのヒヤリングにて出てきた要望は職員会議で検討したり、会社上部に伝えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回職員考課を行っている。又、考課内容は職員にバックし就業目的や資格の習得にむけサポート出来るようにヒヤリングを行っている。		
13		・ぼうさい 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修・社外研修の案内を掲示している。出来るだけ積極的に参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一町内の他の2グループホームとは運営推進会議にて関係を持っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	暫定介護計画の策定も含め意向の確認をしている。		

みんなの家横浜飯田北 I

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	暫定介護計画の策定も含め意向の確認をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	暫定介護計画の策定も含め意向の確認をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は出来るだけ行って頂いている。また得意な事は教えて頂いたり等関係を作っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会にて家族の係りについて相談している。またイベント等に参加して頂けるように機会を設けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの交流は出来るだけ尊重し継続できるように支援している。入居者様との買い物は地域の場所に行くよう心がけている。		

みんなの家横浜飯田北 I

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆さんで外出したり、皆さんで歌ったりする機会を設け利用者様同士が係れる時間を提供している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡退去以外は定期でお手紙を送り退去後の生活の確認を行っている。		
Ⅲ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	思いや意向は家族から、CDを聴く、将棋を指す、詩を書くなどの過去の生活情報を得ておき、会話や表情、反応を通して何をしたいかを確認して支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴を御家族様やご本人様に確認し、その情報を職員で共有している。また環境の整備を出来る限りしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のKFにて状態の把握・情報の共有を図りながら「本人様にとって過ごし易い様に」検討し維持向上を図っている。		

みんなの家横浜飯田北 I

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者を中心に居室担当と共に情報を集め作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録を残している。現在計画内容の記載を検討中。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	会社内外のサービス情報を集め準備している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会から得られる資源を活用して備えている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所契約時に、今までのかかりつけ医はホームで用意している医療機関か二択頂いている。また必要時は外部通院も援助し本人様のニーズに対応している。		

みんなの家横浜飯田北 I

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	勤務時に申し送り等を確認して頂き日々の様子の把握や介護者側からの要望・要請を確認して頂いている。また当日に口頭にて相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は定期的に面会し状況の把握を家族様からの報告だけでなくしている。また日頃より協力体制をお願いしている病院のサマリー等は共有し情報の伝達がスムーズに行く様努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の検討ケースはないが、終末期への指針は入居時に説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成。また消防訓練時応急手当や心肺蘇生法について指導頂いている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年2回行い訓練している。地域にもホームの存在は周知されており災害時の協力のお願いはしている。		

みんなの家横浜飯田北 I

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いについては、採用時に職員から個人情報順守の契約書を取っている。・利用者のプライバシー保護については、入所時に家族に説明し、職員指導を日常行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝のお召し物から始まり自己選択出来る環境を作り尊重している。また選択する事が困難な方にも出来る限りの支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り意向を尊重しその人らしく1日が支援できるように耳を傾けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や起床時等、服を選択頂く時や祝い事の時など希望者には化粧等のお手伝いもしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嚥下状態に合わせて、キザミ食やトロミ食を提供し、スプーンなどを使いやすい器具を提供して自分で食べるように支援している。・食事中は、職員は楽しい会話も心がけている		

みんなの家横浜飯田北 I

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事メニューは管理栄養士が管理している。水分摂取量は毎日の計測で管理を行っている。また、咀嚼・嚥下能力や残存機能に応じた自助具の使用も含め検討・支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアや週1回の歯科衛生士指導にて口腔の清潔保持を保っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄は出来るだけトイレ誘導のち自尿を促している。また習慣や介護抵抗度、睡眠状況・皮膚疾患等の多種の情報を元に意向を尊重しながら排泄介助支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動療法として散歩を多様している。また乳製品等のおやつ提供も取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望者には毎日の入浴も支援している。満足いく時間の入浴を大切にしている。また、入浴時間は朝10時から16時までの枠内にて自由に入浴頂いている。		

みんなの家横浜飯田北 I

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日中起きている方は少なく、居室で休みたい方や椅子に座ってウトウトされる方と色々ですが、軽眠時は見守りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬担当・居室担当は担当している方々の服薬情報を把握している。必要時は看護師・医師・薬剤師と相談し服用して頂いている薬について意見交換を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自治会に加入し盆踊りやあやめ祭り、モミジ狩りなどに参加して楽しんでいる。・室内では利用者の生活歴や過去の趣味などを考慮して、レク等に反映させている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	毎日散歩に出掛け、車椅子利用者も一緒に出かけている。散歩の折に近くのお店で嗜好品を購入して楽しんだり、春には、お花見にも言っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行った際は、出来るだけレジに自信で行って頂く様に促している。		

みんなの家横浜飯田北 I

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望が有り、先方の了解が取れる時は電話をつなぐ事している。年賀状が主だが代筆等支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の採光は豊で、湿度・空調音などは、利用者が居心地よく過ごせるように管理している。ホーム内の飾りは危険回避の為に入居者様の手の届かない所に掲示するなど配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	普段からの設置はないが希望があればテラスに椅子を出したり居室内で他入居者様と談笑できる環境を整備している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に「居心地良く過ごす」為の相談を支援している。また、途中からでも検討・支援を行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様に必要な物や掲示は出来るだけ見やすく表示。設置し自立出来るよう支援している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 みんなの家・横浜飯田北 I

作成日 平成22年4月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束をしないケアの実施として、現在法人方針にて玄関の施錠を行っているが、基本方針として「利用者の意向によって開錠する」という事が、現場に落ちていない。	全職員が法人方針を理解し、利用者の意向に応じ外出の援助や拘束の無い生活の実現を目指す。	職員会議にて身体拘束チェックを行い、拘束の無い生活の提供をユニットごとに創意工夫していく。	3ヶ月
2	1	管理者の独断にて作成した理念はあるが掲示しているだけになっており、理念の意味や方針が現場職員に浸透していない。	ユニットごとに職員で理念を作成する。	OJTを開催しユニット毎の年間計画と理念を作成する。作成後は毎月の会議にて理念の意味に付いて触れる事で、全職員の共通理解を促進していく。	2ヶ月
3					
4					
5					